

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）：人文社会科学研究科

人文社会科学研究科は、人間科学専攻、国際文化学専攻、社会・環境システム専攻からなり、それぞれ以下の通り教育課程を編成、実施している。

本研究科では、研究科共通の必修科目として「サステナビリティ論」を、専攻共通の必修科目として専攻ごとの「総合演習」を設けるとともに、より専門的な教育研究を行うため、教育研究領域ごとに多様な特論、特別演習を設け、総合的で体系的な学びができるよう教育課程を編成している。

### ◇人間科学専攻

（専門分野の基礎的な知識）

1. 専門分野を学んでいくのに必要な学際的・総合的な理解力を獲得させるために、研究科共通科目として「サステナビリティ論」、専攻必修科目として「人間科学総合演習Ⅰ・Ⅱ」を配置し、必修（6単位）としている。

（専門分野の応用的な知識）

2. 専門分野について、より深く学ぶために、所属領域の特論、特別演習の科目を配置し、必修（8単位）としている。

（学際的な知識）

3. 自分の専門領域を超えた学問的なネットワーク形成に参画し、現代人に必要な領域横断的な知識を修得するために、「人間科学総合演習Ⅰ・Ⅱ」や専攻内で隣接する他の教育研究領域の授業を履修することを必修（6単位）としている。

（専門性に基づいた問題解決能力）

4. 獲得した様々な知識・技能を用いて、現代社会、とりわけ地域社会の多様で調和のとれた発展に貢献するために、「サステナビリティ論（ウエルビーイング論）」を配置し、特別研究指導では、全学生がそれぞれテーマを決め、研究に取り組み、修士論文を執筆する。

（研究成果の発表等）

5. 研究の成果を、口頭、論述等で論理的に的確に説明できるように、口頭発表、論文執筆等の教育活動を取り入れた科目（「人間科学総合演習Ⅰ・Ⅱ」等）を配置し、研究成果を口頭発表できるように取り組ませている。

（社会への貢献）

6. 専門家として、地域の行政や教育に携わる中核的指導者または人間学的素養や情報科学的素養をもちあわせた高度専門職業人として活躍するために「情報システム論A・B特別演習」「生命・社会情報論A・B特別演習」「スポーツ社会学A・B特別演習」等を配している。

なお、臨床心理学領域の学生は、以下の項目も必要としている。

（専門分野の応用的な知識）

7. 臨床心理士受験資格要件科目を配置し、必修（16単位）、選択必修（10単位）とし

ている。

(社会への貢献)

8. 臨床心理士として活躍するため「臨床心理地域援助特論」等の科目を配置している。

#### ◇国際文化学専攻

(専門分野の幅広い知識)

1. 専門分野を学ぶうえで必要な基礎知識を獲得させるために各専門領域の特論科目(2単位)と研究科共通科目「サステナビリティ論」を配置し、必修としている。

(専門分野における応用力)

2. 専門分野について、より深く学ぶために、各専門領域の特別演習科目(2単位)を配置し、必修としている。

(情報分析力・語学力・コミュニケーション力等の汎用的能力)

3. 情報分析力や語学力、コミュニケーション力を身につけるために、「アカデミックジャパニーズ」「アカデミックイングリッシュ」「英語コミュニケーション特論」「英語コミュニケーション特別演習」の科目を配置している。

(専門性に基ついた問題解決能力)

4. 獲得した様々な知識・技能を用いて現実の問題解決に取り組む活動を行わせるために特別演習科目を配置している。

(研究成果の発表等)

5. 研究の成果を、口頭、論述などで論理的に説明できるように口頭発表、論文執筆などの教育活動を取り入れた「国際文化学演習Ⅰ・Ⅱ」科目(4単位)、各専門領域の特別演習科目(2単位)を配置し、その集大成として「特別研究指導」では研究成果の発表と修士論文の執筆に取り組みせる。

(社会への貢献)

6. 専門性を生かした社会参画の意欲を高めるために、修士論文に対応した「特別研究指導」の科目を配置している。

#### ◇社会・環境システム専攻

(専門分野の基礎的な知識)

1. 専門分野を学ぶうえで必要な基礎知識を獲得し、現代社会の仕組みを理解させるために、研究科共通科目として「サステナビリティ論」(2単位)、専攻必修科目として「社会・環境総合演習」(2単位)を配置している。

(専門分野の応用的な知識)

2. 専門分野についてより深く学べるよう、法学、経済学、環境科学、地域政策の各教育研究領域ごとに特論科目(各2単位)、特別演習科目(各2単位)を配置している。

(情報分析力・語学力・コミュニケーション能力等の汎用的能力)

3. 現代社会が抱える諸課題を、地域から地球規模に及ぶ広い視点から捉える思考能力と、多様な情報を分析し発信するコミュニケーション能力を修得させるために、「サステナビリティ論(持続可能な社会特論)」と各研究領域に特別演習を配置している。

(専門性に基ついた問題解決能力)

4. 専門分野の高度な知識を基盤に、現代社会の問題解決に向け主体的に行動する確かな実践能力を修得させるために、実習、現地調査、施設見学など、学外での学習に基づく特別演習科目を配置している。

(研究成果の発表等)

5. 特別演習科目での研究報告や議論を通じて、研究成果の発表能力を修得し、その集大成として修士論文または特定課題研究を作成し、さらに修士論文公開発表会での口頭発表ができるよう、特別研究指導（4単位）を配置している。

(社会への貢献)

6. 社会科学と環境科学の視点から社会の知的発展に貢献する能力を修得させるために、社会、環境、地域等に関する諸科目を配置している。